

4 生活・環境 分野

2030年の 目指す姿

人と自然が共に生き、将来にわたって豊かな営みを
続けながら暮らすことができるまちを実現します

本市は、ユネスコエコパーク(※1)に登録された南アルプスから駿河湾に至るまで、豊かで美しい自然に恵まれています。この自然環境の魅力を国内外に伝えるとともに、その恩恵を将来にわたり享受できるよう、次世代へつなげていく必要があります。一方で、風水害の激甚化や南アルプスの植生への影響など、気候変動による問題が多方面で顕在化しています。

そこで、全国の先陣を切り選定された「脱炭素先行地域」で、公民連携による先進的な取組を推進するとともに、市民一人ひとりが、ごみの減量などの社会や環境等に配慮したライフスタイルへ変革するよう促すことで、

2050年の温室効果ガス排出実質ゼロを目指します。

また、市民の生活においては、空き巣などの身近な犯罪や交通事故が、減少傾向にあるものの後を絶ちません。加えて、消費行動の多様化により、消費者トラブルの内容が複雑化しています。

そこで、市民一人ひとりが自立し、地域の一員として互いに助け合う、安全で安心して暮らせる環境を整えていきます。

こうした多様な課題に市民、事業者、行政等様々な主体が連携し取り組むことで、人と自然が共生し、将来にわたり豊かな営みを続けられるまちの実現を目指します。

分野を代表する指標

温室効果ガス排出量 削減率

(2013年度(H25年度)比)
R2 現状値:14.6%

R3 目標:26.0%
R12 目標:51.0%

※静岡市調べ

環境に関する ボランティア活動に 参加している市民の割合

R4 現状値:26.2%

R3 目標:26.6%
R12 目標:27.0%

※静岡市市民意識調査

市民一人1日当りの ごみ総排出量

(家庭ごみ+集団資源回収+事業系ごみ)
R1 現状値:928g/人/日

R3 目標:836g/人/日
R12 目標:783g/人/日

※静岡市調べ

刑法犯認知件数

R3 現状値:2,907件

R3 目標:2,326件
R12 目標:1,900件以下

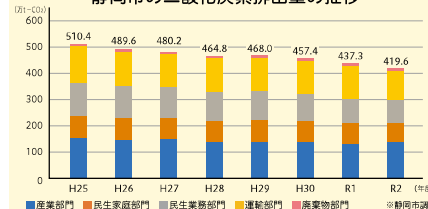
※静岡県警察本部公表資料

現状と課題

豊かな自然や安全・安心な生活を守り、
次世代につなげるために、経済・社会・環境が調和した
持続可能な社会の構築が求められています

2050年カーボンニュートラルの実現

静岡市の二酸化炭素排出量の推移



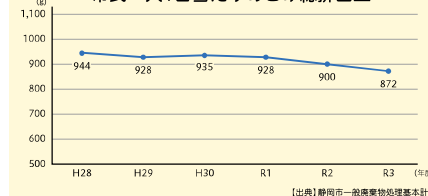
近年、風水害の激甚化など、地球温暖化による影響が多方面で見られています。2015年のパリ協定により全ての国で温室効果ガス排出量削減を目指す枠組みが構築されるなど、気候変動への対応が国際的にも加速している中、国は2050年温室効果ガス排出実質ゼロ(カーボンニュートラル)に取り組むことを示しました。

本市は、企業と連携したエネルギーの地産地消等の先進的な取組が高い評価を受け、令和4年に「脱炭素先行地域」に選定され、脱炭素社会実現をけん引する役割が期待されています。

今後は、このような先進的な取組を推進することで、脱炭素に関する新たな企業投資を呼び込む等、環境と経済の好循環を加速させ、2050年カーボンニュートラルを実現していく必要があります。

ごみの減量に向けた取組と 安定した廃棄物処理体制の整備

市民一人1日当たりのごみ総排出量



【出典】静岡市一般廃棄物処理基本計画

限られた資源の有効活用や衛生的な生活環境確保のため、ごみの減量と安定した廃棄物処理体制の整備が必要となります。本市では静岡版「もったいない運動」等を通じ、ごみの減量に努めてきましたが、近年市民一人1日当たりのごみ総排出量は横ばい傾向にあります。

また、最終処分場の残容量が逼迫するとともに、清掃工場をはじめとする廃棄物処理施設の経年劣化も進んでいます。

このため、市民一人ひとりが、ごみの減量などの社会や環境等に配慮したライフスタイルへ変革するよう促す取組の推進や、安定した廃棄物処理体制の整備に向け、必要な施策に取り組む必要があります。

豊かな自然の保全と活用の推進

南アルプスの自然への影響と保護対策



ニホンジカによる食害の痕跡

高校生による防鹿柵の設置

本市は南アルプスから駿河湾まで山、川、海の豊かで美しい自然に恵まれています。

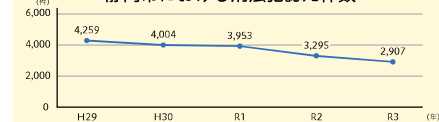
特に、平成26年にユネスコエコパークに登録された南アルプスは、貴重な自然環境を有していること、そして、その自然と共生しながら持続的に発展してきた地域であることが世界に認められています。

しかし、その南アルプスにおいても貴重な高山植物が減少するなど、気候変動や食害等による自然への影響が見受けられます。

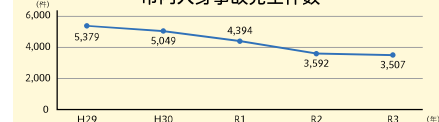
世界に誇れる自然を次の世代へ継承していくためにも、この自然から享受する様々な恵みについて市民の理解を深めるとともに、この自然を誇り、守る心を育てていくための取組を推進する必要があります。

市民生活における 安全で安心な暮らしの実現

静岡市における刑法犯認知件数



市内人身事故発生件数



【出典】静岡県警察本部公表資料

市民の生活においては、空き巣や自転車の盗難など身近な犯罪や交通事故は減少傾向を示すものの、未だに後を絶ちません。また、インターネットを介した取引の拡大などに伴い消費行動が多様化しており、消費者トラブルの内容が複雑化しています。

誰もが安全で安心に暮らせるよう、地域・学校・家庭等での防犯・交通安全活動や消費者トラブル防止に対する取組をさらに進めていく必要があります。

政策と施策体系図

政策
01

地域脱炭素の取組を加速させます



施策1	施策2	施策3	施策4
地域の特色を活かした再生可能エネルギーの最大限導入 <ul style="list-style-type: none"> ● 脱炭素先行地域の推進 ● 太陽光発電設備の普及促進 	省エネルギーの推進 <ul style="list-style-type: none"> ● 市有施設の省エネ化の推進 ● 中小企業向け省エネルギー対策支援事業 	災害に強く環境にやさしいエネルギーの分散化・高度利用化 <ul style="list-style-type: none"> ● 戸建住宅におけるZEH^(※1)化支援事業 ● グリーン水素^(※2)の利活用促進 ● 次世代自動車の普及拡大 	気候変動に適応した対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> ● 地球温暖化によって激化する災害への対応 ● 自然生態系分野等の適応 ● 間伐や緑化など吸収源対策の強化

(※1) ZEH：Net Zero Energy House(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)。断熱性能の高い建物と省エネ機器で、使うエネルギーを抑え、太陽光などでエネルギーを創り、家で使う年間の一次エネルギー収支をゼロにする住宅
(※2) グリーン水素：再生可能エネルギーなどを使って、製造工程においても二酸化炭素を排出せずに作られた水素

政策
02

豊かな自然や暮らしの環境を守り、次世代へつなげます



施策1	施策2	施策3	施策4
南アルプスなどの自然環境・生態系の保全 <ul style="list-style-type: none"> ● 高山植物保護事業 ● ライチョウ保護事業 ● 南アルプス環境調査 ● 外来種対策事業 	持続可能な自然の利活用の推進 <ul style="list-style-type: none"> ● 各種自然環境に係る学習会・イベント等の実施 	自然を守る人材の育成 <ul style="list-style-type: none"> ● 放任竹林対策事業 ● 清流保全事業 	良好な生活環境の確保 <ul style="list-style-type: none"> ● 水質や大気等の状況を監視する体制の充実 ● 環境保健研究所機能の充実(移転整備、検査体制の更なる強化)

政策
03

循環型社会を目指した廃棄物政策を推進します



施策1	施策2
ごみのさらなる減量に向けた協働の推進 <ul style="list-style-type: none"> ● 静岡版「もったいない運動」の推進 ● 事業系ごみの減量化、資源化 	安定的な廃棄物処理体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物処理施設の整備 ● ごみ収集体制の整備 ● 浄化槽設置整備事業

政策
04

犯罪等に強い誰もが安全で安心して暮らせる社会づくりを推進します



施策1	施策2	施策3
みんなで取り組む地域防犯活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ● 地域自主防犯活動団体に対する助成 ● しずおか防犯パトロール ● 青色防犯パトロール活動の推進 	自分自身と相手を守る交通安全意識の向上 <ul style="list-style-type: none"> ● 市内すべての地区(学区)における交通安全運動の推進 ● 交通ルール・マナーの普及啓発 	正しい知識・的確な判断に基づく消費行動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ● 消費生活に係る相談及び情報発信の充実 ● 学校や地域での消費者教育の推進

生活・環境分野に関連するSDGsゴール

